

令和5年度事業計画

本研究所は、平成29年3月に創立60周年を迎えた。令和4年度は公益財団法人としての9年目の活動を終えるが、新型コロナウイルス感染拡大防止のために延期していた、公開シンポジウム及び国際交流ワークショップを開催することができた。哲学講座については、オンライン配信が主流となり、東京や東北・仙台などから講師を招くことができた。令和3年度に開始した「オンライン講義シリーズ」を継続し、新たに「ドイツ総領事オンライン講演と対談の夕べ」を開催した。後者ではクラウドファンディングに挑戦し、京都市経由でウクライナへ寄付することができた。また、年報『文明と哲学』の刊行を着実に遂行してきた。

令和5年度においては、徐々に再開しつつある学术交流を支援するなど、さらに多様なプログラムを提供することにより、本研究所の公益目的事業を堅実に継続し、60年の歴史を有する法人にふさわしい事業運営を実施する。

1. 日独学術文化に関する研究並びにその助成（定款第4条第1項第1号）

公開シンポジウム

新しい連続テーマの1回目として、第31回公開シンポジウムを開催する。

2. 日独学術文化に関する図書雑誌の編集及び出版刊行（定款第4条第1項第2号）

年報『文明と哲学』第16号を刊行する。

公開シンポジウム「文明」成果報告集を発行する。

3. 日独学術文化に関する講習会、講演会及び談話会等の開催（定款第4条第1項第3号）

哲学講座の開講

一般市民、学生、研究者を対象とする哲学講座を、初夏、中秋、初春の3期に開講する（1期6回）。テーマを哲学（初夏）、日本思想（中秋）、精神医学（初春）とし、それぞれに相応しい講師を迎える。

オンライン講義の開講

役員が講師を務め、一般市民、学生、研究者を対象とするオンライン配信のみの講義を随時開講する。

「ドイツ総領事オンライン講演と対談の夕べ」を秋に開催する。

4. 日独学術文化に関する図書及び資料の収集並びに公開（定款第4条第1項第4号）

『所報』第12号を発行し、関係者及び関係団体へ配付する。

ホームページに日常の活動を随時掲載し、SNSによる発信を充実させる。

地下書庫の蔵書について検索機能を備えた公開体制を整える。

5. 日独学術文化に関する研究者の招待、派遣及び交換（定款第4条第1項第5号）

哲学系においては、デュッセルドルフ・恵光ハウス、テュービンゲン大学・学際的・間文化的研究センター（CIIS）と共同で「仏教とキリスト教の〈自然〉概念」シンポジウムをドイツで開催する。

令和4年度に開催した「西田・西谷ワークショップ」の記録集を刊行する。

医学系においては、原則として役員の在籍する国内の大学等と連携して、主にドイツ語圏から研究者を招待し、講演会、シンポジウム等を開催する。

法学系においては役員の在籍する国内の大学等と連携して、主にドイツ語圏から研究者を招待し、講演会、シンポジウム等を開催する。

ハノーヴァー哲学研究所との連携を継続する。

以上